

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800866	
法人名	特定非営利活動法人ふるさと	
事業所名	グループホームふるさと敷島	
所在地	山梨県甲斐市大下条425番地1	
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が笑顔で安心して生活できるよう、全職員で取り組んでいます。セラピー犬「プーこちゃん」が利用者様の笑顔を増やし、元気にしてくれます。日当たりの良い玄関、ちょっとした気分転換にと外気欲ができる中庭、野菜や花作りが楽しめる畑など恵まれた環境を十分に活かし、穏やかに過ごしていただいています。利用者様の重度化が進み平成30年からはターミナルケアを提供するよになり、終いの棲家としての役割を担うためスタッフはケアの質の向上に努めています。行事やレクレーション、体操で体を動かし楽しみや役割をもって生活し、現状が維持できるよう支援し過ごしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造平屋建て2ユニットの事業所は、JR竜王駅北部に位置し、周辺には大型スーパー、ホームセンター、保育園や小学校、集合住宅などがある閑静な住宅街にある。ユニット間にある中庭には、花や野菜等を植えて利用者を楽しませている。玄関に理念の「ちいきにとけあい いきいき暮らし きごころ知れた仲になる」が大きく掲示され、利用者に対する事業所の取り組みが窺える。同敷地内には、併設してデイサービス、居宅介護事業所、認知症専門の診療所があり、医療との連携も図られている。職員は利用者一人ひとりに寄り添い、明るい清潔な環境の中でその人らしい生活が送れるよう支援に努めている。また、コロナ感染症対策にも配慮した対応を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームふるさと敷島

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ちいきにとけあい、いきいき暮らし、きごころ知れた仲になる」(ち・い・き)を理念に揚げ、全職員が日々の支援の中で心掛けている。	「ちいきにとけあい、いきいき暮らし、きごころ知れた仲になる」(ち・い・き)を理念に揚げ、全職員が日々の支援の中で心掛けている。	「ち・い・き」を基にして職員と考え、独自に作り上げた事業所理念がある。地域とのつながりを大切にしたい理念は、玄関にも掲げてある。職員会議等で確認し、意識して取り組んでいる。職員達が自ら作った理念でもあり、具体的な支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	例年、自治会に入り、地域の行事やお祭りに参加しているが今年はコロナで行事等が中止になっている。日々の散歩などで地域の方々と声を掛け合いなじみの関係も築くことができている。	例年、自治会に入り、地域の行事やお祭りに参加しているが今年はコロナで行事等が中止になっている。日々の散歩などで地域の方々と声を掛け合いなじみの関係も築くことができている。	地域住民の一人として、自治会に加入している。毎年参加していた、地域の行事や神社のお祭り、フラダンスやギター演奏等ボランティアの受け入れもコロナ禍で中止している。日常的に散歩に出かけた時には、地域の人が声を掛けてくれるなど暮らしの中で関係が作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さんからの相談もあり、具体的な内容についてアドバイスしている。	地域の民生委員さんからの相談もあり、具体的な内容についてアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催している。毎回活発な意見交換がされている。(今年はコロナで施設スタッフのみでの開催のため、ご家族などからは都度意見をうかがっている。)	二か月に一度、運営推進会議を開催している。毎回活発な意見交換がされている。(今年はコロナで施設スタッフのみでの開催のため、ご家族などからは都度意見をうかがっている。)	民生委員、家族会会長、利用者、市の担当者がメンバーとして2か月に1回開催していた運営推進会議は、コロナ禍で職員のみで開催している。会議内容を議事録にして、運営推進会議のメンバーに送り、意見、要望を聞くようにしている。意見、要望があれば検討して反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして参加をお願いしている。今年は会議への参加ができなかったため、書面にて会議の内容をお伝えしている。	運営推進会議のメンバーとして参加をお願いしている。今年は会議への参加ができなかったため、書面にて会議の内容をお伝えしている。	市の担当者が運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の実情や取り組み等を伝えている。また、併設している居宅介護支援事業所に市職員が来た際には、事業所にも寄り情報の交換をしている。困難事例がある時には、相談事項に対応してもらえるよう関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進担当者を中心に勉強会を開催し、全職員が「身体拘束はしない」という信念を理解、実施している。	身体拘束廃止推進担当者を中心に勉強会を開催し、全職員が「身体拘束はしない」という信念を理解、実施している。	身体拘束廃止委員会があり担当職員で勉強会を開催している。内容は他の職員にも回覧して共有認識を図っている。玄関も施錠しないで開放し、外出しそうな様子を感じたら止めるのではなく、一緒について行くようにしている。また、近所の人にも見守り、声掛けや連絡をしてもらえるよう関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市で実施している研修会にの資料をもとに施設内で勉強会を実施している。スタッフ間で声を掛け合い危機感を持って虐待防止に努めている。	市で実施している研修会にの資料をもとに施設内で勉強会を実施している。更衣の際にはスタッフが利用者様のボディチェックを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で実施している研修会にの資料をもとに施設内で勉強会を実施している。ご家族から相談を受けることもあり随時対応している。	市で実施している研修会にの資料をもとに施設内で勉強会を実施している。ご家族から相談を受けることもあり随時対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や改定時は書面と口頭で時間をかけて説明している。疑問や不明な点があった場合にはいつでも連絡していただけるよう、ご家族に伝えてその際には速やかに対応している。	入所時や改定時は書面と口頭で時間をかけて説明している。疑問や不明な点があった場合にはいつでも連絡していただけるよう、ご家族に伝えてその際には速やかに対応している。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームふるさと敷島

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望を日常的に受け入れる体制をとっている。ご家族との会話の機会を多く持ち、話しやすい雰囲気作りにも努めている。家族会で頂いた意見や要望については速やかに職員会議で検討し改善につなげている。	意見箱を設置し、意見や要望を日常的に受け入れる体制をとっている。ご家族との会話の機会を多く持ち、話しやすい雰囲気作りにも努めている。家族会で頂いた意見や要望については速やかに職員会議で検討し改善につなげている。	コロナ禍で、面会を禁止している。家族等とは窓越や電話、手紙でのやり取りをしている。また、利用料金を直接支払いに来る家族もいて、話しやすい雰囲気をつくり聞くように心がけている。意見、要望が出された場合は、話し合い検討して対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に実施し、意見や要望を自由に話し合える機会を作っている。	職員会議を定期的に実施し、意見や要望を自由に話し合える機会を作っている。	毎日の申し送りやユニット毎の職員会議等で職員からの意見、要望を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、希望休や勤務体制、備品購入等職員から要求があった場合は柔軟に対応して働きやすい環境を整えている。代表者とも年2回、個人面談があり意見、要望を聞く機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績及び勤務状況を把握し、給与水準等、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。	職員の実績及び勤務状況を把握し、給与水準等、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。代表者との個人面談も年2回あり、話を聞く機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	例年、事業所内外の研修に参加するようになってきたが今年は研修に参加できないため、スタッフ一人ひとりの力量を把握し管理者が指導を行っている。	例年、事業所内外の研修に参加するようになってきたが今年は研修に参加できないため、スタッフ一人ひとりの力量を把握し管理者が指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年はグループホーム協会の研修を通し、交流を図り意見交換をしている。今年は研修等がないため、グループホーム協会からの通知を確認し勉強会等に役立っている。	例年はグループホーム協会の研修を通し、交流を図り意見交換をしている。今年は研修等がないため、グループホーム協会からの通知を確認し勉強会等に役立っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴や現在の状態をよく理解した上で、ご本人やご家族の思いをよく聞き、新しい環境への不安を少しでも取り除く事ができるよう個別に対応、ゆったりとした時間をつくり工夫している。	利用者様の生活歴や現在の状態をよく理解した上で、ご本人やご家族の思いをよく聞き、新しい環境への不安を少しでも取り除く事ができるよう個別に対応、ゆったりとした時間をつくり工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の状況やご家族の思いをよく聞き、思いに添う支援が出来るよう努めている。入所当初は特にどう過ごしているのか…など不安が多いと思うので生活状況や体調など1週間は毎日報告し情報共有を図っている。	ご本人の状況やご家族の思いをよく聞き、思いに添う支援が出来るよう努めている。入所当初は特にどう過ごしているのか…など不安が多いと思うので生活状況や体調など1週間は毎日報告し情報共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の話をよく聞き、思いや要望に添った具体的な支援内容を全職員で検討しサービスにつなげている。	ご本人、ご家族の話をよく聞き、思いや要望に添った具体的な支援内容を全職員で検討しサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様一人ひとりの生活歴や心身状況を把握し支援している。人生の先輩である利用者様を尊敬し、職員は常に学ぶ姿勢で生活している。	職員は利用者様一人ひとりの生活歴や心身状況を把握し支援している。人生の先輩である利用者様を尊敬し、職員は常に学ぶ姿勢で生活している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームふるさと敷島

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況や変化をご家族に報告し、ご家族と職員が同じ気持ちで利用者様を支えることが出来るよう支援している。	利用者様の状況や変化をご家族に報告し、ご家族と職員が同じ気持ちで利用者様を支えることが出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は友人や親せきの方々の面会や、一緒に外出を楽しむことが出来る支援をしている。今年は面会禁止を解くことが出来なかったため、窓越しでの面会や電話対応、手紙など関係が継続できるよう支援している。	例年は友人や親せきの方々の面会や、一緒に外出を楽しむことが出来る支援をしている。今年は面会禁止を解くことが出来なかったため、窓越しでの面会や電話対応、手紙など関係が継続できるよう支援している。	コロナ禍で友人や知人、職場の仲間等の訪問は困難な状況にある。ケアプランを家族等に郵送する際には、日常生活の様子を写真等で伝えている。病院受信後に、家の近くを通り様子を見たり、ライン電話の動画で家族と話をする機会をつくったり、できることの繋がりを継続して支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者様には職員が寄り添い他の利用者様とかかわりのきっかけになるよう支援している。	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者様には職員が寄り添い他の利用者様とかかわりのきっかけになるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族から相談を受けサービスを利用している方がいる。継続的に関係を保ち困りごとなどの相談にも都度対応している。	退所された方の家族から相談を受けサービスを利用している方がいる。継続的に関係を保ち困りごとなどの相談にも都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりやご家族などの話の中から利用者様の思いや要望をくみとり、職員間で情報を共有している。	日常のかかわりやご家族などの話の中から利用者様の思いや要望をくみとり、職員間で情報を共有している。	入居時に利用者、家族等から暮らし方の希望や意向を聞いて把握している。また、日々の関わりの中で、聞いた事は記録して職員間で共有している。意思疎通が困難な場合でも、日頃の行動や表情から汲み取ったり、家族等から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話や行動を通し、馴染みや安心のヒントが得られるよう努めている。過去にサービス利用がある方は事業所から情報をいただき、より深くご本人を理解することにつなげている。	日常生活の会話や行動を通し、馴染みや安心のヒントが得られるよう努めている。過去にサービス利用がある方は事業所から情報をいただき、より深くご本人を理解することにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状況等、個別に記録し生活リズムや変化等を把握している。定期的にカンファレンスを行い「できること探し」に取り組んでいる。	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状況等、個別に記録し生活リズムや変化等を把握している。定期的にカンファレンスを行い「できること探し」に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族から思いや要望を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを実施している。利用者様、ご家族の思いを重視した介護計画を作成している。	ご本人やご家族から思いや要望を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを実施している。利用者様、ご家族の思いを重視した介護計画を作成している。	利用者、家族等の意見、要望を聞いてその人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。職員会議でカンファレンスを行い3か月毎に見直しをしている。家族等の要望や身体状態の変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、食事摂取量、排泄の内容、表情や言葉など注意深く観察し記録している。職員一人ひとりの気づきを会議で出し合い介護計画の見直しにも役立っている。	バイタル、食事摂取量、排泄の内容、表情や言葉など注意深く観察し記録している。職員一人ひとりの気づきを会議で出し合い介護計画の見直しにも役立っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームふるさと敷島

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況により、ご家族の理解や協力をいただきながら要望に応じて個別に対応している。	個々の状況により、ご家族の理解や協力をいただきながら要望に応じて個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年、地域の保育園との交流会を行ったり、ボランティアを受け入れ楽しみを増やし生き生きと過ごせる支援を行っている。今年は部外所の受け入れは行っていない。	例年、地域の保育園との交流会を行ったり、ボランティアを受け入れ楽しみを増やし生き生きと過ごせる支援を行っている。今年は部外所の受け入れは行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の要望に応じ、かかりつけ医を決めていただいている。	ご本人、ご家族の要望に応じ、かかりつけ医を決めていただいている。	かかりつけ医又は協力医への受診、訪問診療を利用者、家族が希望して定期受診している。かかりつけ医は家族同行としているが職員が付き添っている。受信結果は家族等に連絡し情報を共有している。また、敷地内の認知症専門医の診察もあり、健康管理や精神面での対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護職に相談しケアを行っている。	施設の看護職にい相談しケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退所の際には病院との情報交換をカンファレンスや電話で行い、早期退院や退院後のケアがスムーズに行えるよう、家族を含め都度検討している。	入退所の際には病院との情報交換をカンファレンスや電話で行い、早期退院や退院後のケアがスムーズに行えるよう、家族を含め都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や折に触れ、重度化及び終末期についてご家族に希望を聞きお話ししている。主治医との連絡を密にとりターミナルケアを実施している。	入所時や折に触れ、重度化及び終末期についてご家族に希望を聞きお話ししている。主治医との連絡を密にとりターミナルケアを実施している。	入居時に重度化や終末期の事業所での対応について、説明している。重度化と主治医が判断した場合は、利用者、家族等と話し合いの機会を作り、意向を確認しながら対応方針を決めている。事業所でも在宅による医療連携体制を整えて、ターミナルケアを実施している。家族等にも早い段階から話をして、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員指導のもと緊急時対応の指導を受け訓練を実施している。	看護職員指導のもと緊急時対応の指導を受け訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。	昼夜を想定し緊急連絡網を使い避難訓練を実施している。	年2回、避難訓練を実施している。消防署の指示により、今回は火災を想定して通報訓練を実施した。日中や夜間を想定しての訓練も実施して、職員は避難誘導方法を身につけている。防災設備の点検も年2回実施している。また、警備会社との契約もあり見守りがされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心掛け実施している。入浴や排泄、着衣交換時にはプライバシーを損ねないよう支援している。	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心掛け実施している。入浴や排泄、着衣交換時にはプライバシーを損ねないよう支援している。	利用者のその人らしい、姿を大切にプライバシーを損ねないような言葉かけに注意している。呼称は、苗字としているが利用者の生活歴から反応の良い「先生・部長」と呼ぶことで尊厳が保たれている。トイレ誘導等の声掛けや居室に入る時も対応に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームふるさと敷島

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の話に耳を傾けゆとりを持ち、「待つケア」を心掛け実践につなげている。	利用者様の話に耳を傾けゆとりを持ち、「待つケア」を心掛け実践につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴や散歩など希望に添った時間やタイミングでの支援を心がけている。	外気浴や散歩など希望に添った時間やタイミングでの支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のお好みや個性を大切に、支援している。	利用者様のお好みや個性を大切に、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事を提供している。テーブルを拭いたり後片付けなど個々の力に応じて職員と一緒にやっている。	一人ひとりに合わせた食事を提供している。テーブルを拭いたり後片付けなど個々の力に応じて職員と一緒にやっている。	利用者の希望も取り入れて、栄養バランスの良い献立を職員が作っている。食材は毎日職員が買い物に行き、調理も担当している。利用者も食事の片付けや、食器洗い等出来る事を手伝っている。食事形態も、ミキサー食等利用者に合わせている。手作りおやつ、お誕生日のケーキも楽しみなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態を提供している。食事量、水分摂取量は職員が把握している。その日の状態や気候等により量や内容など工夫し支援している。	一人ひとりに合わせた食事形態を提供している。食事量、水分摂取量は職員が把握している。その日の状態や気候等により量や内容など工夫し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、義歯の洗浄、管理をしている。コロナにより歯科医の定期受診は中止している。)	毎食後、口腔ケアを行い、義歯の洗浄、管理をしている。コロナにより歯科医の定期受診は中止している。)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い一人ひとりの排泄パターンを職員が把握している。誘導時間を工夫することで失禁が減り、リハビリパンツから肌着に変えることが出来た方が何人かいらっしゃる。	排泄チェックを行い一人ひとりの排泄パターンを職員が把握している。誘導時間を工夫することで失禁が減り、リハビリパンツから肌着に変えることが出来た方が何人かいらっしゃる。	排泄チェック表を使用し、利用者毎に時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるように支援している。トイレに歩いて行く事もリハビリになると捉えている。習慣やパターンに応じた個別の排泄で、リハビリパンツから綿パンツへ変わった利用者もいて、自立に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防も含め、毎日体操を行っている。毎日夕食時にヨーグルトを提供している。体操が困難な方には腹部マッサージを行っている。	便秘予防も含め、毎日体操を行っている。毎日夕食時にヨーグルトを提供している。体操が困難な方には腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	いつでも入浴できる。入浴拒否がある方でも最低週2回は入っていただけるよう支援している。	いつでも入浴できる。入浴拒否がある方でも最低週2回は入っていただけるよう支援している。	家庭的な浴槽であり、午前・午後を通して毎日入浴の準備ができています。基本的には週2回としているが、利用者のその日の希望を確認して入浴支援している。入浴が嫌いな利用者には、声掛けや、入浴時間を替えて入浴を試みている。入浴剤も市販や季節感のある物を用意して気分を替えている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームふるさと敷島

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ、昼寝をしたり好きな場所でくつろぐことができる支援をしている。日中は外気浴や体操で体を動かしよい睡眠がとれるよう支援している。	個々の状況に応じ、昼寝をしたり好きな場所でくつろぐことができる支援をしている。日中は外気浴や体操で体を動かしよい睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。身体状況の変化により薬の内容に変更があった場合は全職員が把握するよう徹底している。	利用者様の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。身体状況の変化により薬の内容に変更があった場合は全職員が把握するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりが役割や生きがいを持って生活できるように支援している。	利用者様一人ひとりが役割や生きがいを持って生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年はお墓参りや外食、外泊し自宅で家族と過ごす時間を設けてきたが、今年はお家族との外出等ができないためスタッフが紅葉を見るドライブに行くなど感染予防を行い外出の機会を作ってきた。	例年はお墓参りや外食、外泊し自宅で家族と過ごす時間を設けてきたが、今年はお家族との外出等ができないためスタッフが紅葉を見るドライブに行くなど感染予防を行い外出の機会を作ってきた。	コロナ禍で外出は自粛しているが、事業所近くにある梅の花が楽しめる公園へ車で行き、外には出ないで車窓から眺めて季節を感じている。また、病院への受診で外出した時に、家を見たいとの希望で近くを通り支援している。日常的には、事業所周辺を散歩するなどして、戸外に出る機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族に要望に応じ支援している。	ご本人、ご家族に要望に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への手紙を出すため、文章を考えたり一生懸命下書きし清書をされ楽しみにしている。電話での会話は日常的に支援している。	家族や知人への手紙を出すため、文章を考えたり一生懸命下書きし清書をされ楽しみにしている。電話での会話は日常的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で快適に過ごすことができるよう環境を整備している。季節ごとの飾りつけやみんなで作成した作品などで会話が弾んだり笑顔のきっかけになるよう工夫している。	安全で快適に過ごすことができるよう環境を整備している。季節ごとの飾りつけやみんなで作成した作品などで会話が弾んだり笑顔のきっかけになるよう工夫している。	玄関を入ると清涼感のある香りが漂い、清潔感を感じる。食堂を兼ねたリビングは二つのユニットの間にあり、利用者同士の交流の場にもなっている。過度にならない掲示物や鉢植えの花からも居心地の良さを感じる。コロナ感染症対策にも配慮して、職員のマスク着用、空気清浄機、換気、手洗い、消毒、テーブルには仕切りを置いて対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に何か所かソファを置き、思い思いに自由に過ごすことが出来る空間がある。	ホーム内に何か所かソファを置き、思い思いに自由に過ごすことが出来る空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意向に添い、使い慣れた馴染みの物や仏壇など居室に置くことで安心できる場所になるようにしている。	ご本人やご家族の意向に添い、使い慣れた馴染みの物や仏壇など居室に置くことで安心できる場所になるようにしている。	居室の床は、木目調で落ち着いた雰囲気がある。エアコン、ベット、押し入れ、加湿器が備えてある。窓のカーテンは自由で好みの色や柄物になっている。冷蔵庫、テレビ、ダンス、仏壇、ギター、ラクビーボール等馴染みの物を持ち込み、その人らしく居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」の継続が可能な環境になるよう個々の状況に合わせて安全に過ごしていただくための工夫をしている。	「できること」の継続が可能な環境になるよう個々の状況に合わせて安全に過ごしていただくための工夫をしている。		